

第4回伊豆市教育振興審議会議事録

20/12/1 19:00 生きプラ

教育長挨拶

会長 挨拶

- ◎ 前回会議録の承認
承認する。

◎「学校再編成を語る会」を終えて

各審議委員から各地区の「学校再編成を語る会」での感じた点などを伺った。

修善寺地区

- ・自分の孫は、小規模の学校へは行かせたくないという保護者の話は印象に残った。少子化における子供達の教育は、学校だけではなく、地域を含めて進行していることを実感した。自分の経験だけでは済ますことができないと思う。
- ・「学校再編成を語る会」の開会が子育てをしている人たちにとっては参加が難しい時間帯であった。地域により再編成への温度差があることを実感した。
- ・学校の統合後を心配している。学校の統廃合は、きっかけにしかすぎない。統廃合をした後に伊豆市の教育はどうなるのか。
- ・学校の再編成について、具体的な案を出してもいいのではないか。

土肥地区

- ・子育て中の人たちの参加が少なかった。これから学校にあがる子の保護者に意見を聞いた方がいいのではないか。
- ・新しい教育について理想像を知りたい。父兄の参加が少なかった。幼稚園はふじみ幼稚園が土肥幼稚園に統合されているので、仲良くなった友だちと別れなければならない。子どもたちにさみしい思いをさせたくない。
- ・学校再編成のメリットを知らせる必要がある。

中伊豆地区

- ・地域の皆さんが真剣に考えていることがよくわかった。学校を統廃合した後のフォローが必要である。学校の統廃合には反対していない。
- ・大東小はすでに複式学級を実施していて、再編成について前向きな様子が伺えた。学校が統廃合された際に現学校名がひとつだけ残ることについては、納得しない様子が見られた。大東小や八岳小の子どもたちの親の意見を聞くことができ良かった。子どもがいる親が不安を持っている。
- ・0歳から中学生までの親の意見を集約できないか。その方策を検討してもらいたい。大東小は、複式学級が実施されているが大部分の子どもたちが歩いて通うことができている。学校が再編成されればほとんどの子どもが歩いて通え

なくなることが予想される。歩いて通えることのメリットを忘れてはならない。

湯ヶ島地区

・月ヶ瀬幼稚園や月ヶ瀬小学校の閉園・再編成のうわさがあり、月ヶ瀬小学校区の保護者の参加が多かった。

・湯ヶ島小学校区の保護者は、それ程、関心が高くないようなので、湯小の学区内にも学校再編成の資料を提示した方がいいのではないかな。

・学校は地域のコミュニティーである。子どもたちにとって一番いいことはなにかを考えてもらいたい。

・地域によっては、地域の真ん中あたりに学校を1校新しく建てるのがいいのではないかな。

◎ 適正な学校規模について（前回に配布した資料の内容について審議した）

・適正規模は、必要である。

・学級編成ができるような学校にしたい。

・1クラスの人数は、国の基準40人との関係があるので、明記しない。

・学級編成ができることを理想とする。複式学級はつくらない。

・中学校については、10年後も複数学級が維持できる。

・推計値を元に将来を決めていいのかな。

・伊豆市全体でまとめると地域性が反映できない。

・文言については、修正、変更や削除が必要である。

◎ 適正な学校配置について

・生まれた子どもたちが半分になる10年先を見ていいのかな。今の子どもたちが小学校に上がるまでには、目星をつけたい。

・土肥地区の中学生については、湯ヶ島や修善寺まで通うことも考えられる。小学生については、そこまで考えることはできない。

・小学校の再編成は避けられない。

・大東小学校は、すぐに再編成の対象となる。

・事務局がいろいろなケースの案をつくる。

・学校の再編成について、市長と議員の意見が対立しているように見える、そのような状況の中で、教育振興審議会が学校再編成について深く突っ込んでいいのかなという疑問を感じている。

・学校再編成について、パブリックコメントを求めたい。

（会議録の公開を伊豆市HPで行うことを確認した。）

（次回「適正配置」についてたたき台を事務局で作成、これについて審議する。）

◎ 次回開催 1月15日（木）午後7時 生きプラ